

# あいな 里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

## トピックス

- 里山管理技術者認定講座
- ARワークショップ
- ARイベント竹灯明づくり
- 茅葺き施工現場体験会
- 工事現場の進捗状況

## 新年のあいさつ

ため池に張る氷、地面を覆う霜柱、時折舞う小雪。季節感を感じられる事が少なくなった都市部と異なり、ここ藍那では、全身で冬を感じることが出来ます。夏と比べて空気も澄んでいるようで、見晴らしのいいところに立つと、遠くの山がくっきりと見えるのも冬の楽しみのひとつです。

さて、工事現場としての公園も年度末に向けて着々と工事が進められており、里山まつりの時とはまた違った景色になりつつあります。

最後に、やや遅い時期ではありますが本年もよろしくお願いたします。

## 製作・発行

国営明石海峡公園事務 神戸地区現場事務所  
〒651-1104  
神戸市北区山田町藍那字伝庫14  
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944  
E-mail:aina@joy.ocn.ne.jp

## 茅葺き施工現場体験会

2008年1月6日



茅葺きのようす

「雨が降っても表面を湿らせるだけで、茅の中までは水は入りません。」  
そう話す茅葺き職人の説明に熱心に耳を傾ける若い参加者たち。年が明けたばかりのこの日、明石工業高等専門学校や神戸芸術工科大学の学生ら約20名が交代で屋根に上がり茅葺き体験

をしていただきました。「まっすぐな茅を並べてから竹で押さえて表面を整えていく。これを繰り返せば茅葺き屋根は出来る」と職人さんは簡単に言いませが、その作業は実に奥が深いものなのです。  
隙間が出来てしまえば、そこから雨水が入り、水が



溜まってしまおうと腐敗が始まります。表面を雨水が伝っていくのは、熟練の技がなせるものなのです。  
慣れないヘルメットを被り、足には初めて履いた足袋。自分の背丈を越える茅束を屋根の上で扱う事に最初は戸惑い気味だった参加者でしたが、時間がたつにつれ、楽しそうに作業していました。  
竹を固定する「針受け」の作業のため、屋根裏にも上がったもらいました。  
普段なかなか間近で見る



ことが出来ない竹と荒縄で組まれた屋根の地下部分に当たる「やなかご」のつくりに興味津々の参加者も多く、作業の合間に質問をさかれています。多く見かけました。  
今回は、1日限りの体験会でしたが、茅葺きについて、そして公園づくりについて、少しでも興味を持っていただけたら嬉しい限りです。

※今回の発行は3月中旬頃の予定です

## 工事現場の進捗状況 2008年1月17日の様子



総合案内所工事



トイレ棟工事



あいな亭・食堂棟工事



あいな亭茅葺き





公園内で活動している団体の方を対象に、公園内の樹林や草地の管理方法や安全管理の講習会が1月から3月にかけて計12回開催されます。

■公園知識

初回の講座は公園知識についてです。里山管理の講習は、まず公園の概要について知ってもらうことから始まります。

公園内で活動していく方は、将来公園の管理者側の立場になっていただきたい人。その方々には案内人として、公園の事をより詳しく知ってもらい、訪れる方に説明が出来るようにと考えています。

そこで、公園に関わる法令や、市民活動が目指すものなどを説明し、午後からは公園工事の進捗報告を兼ねて工事現場の見学会を行いました。将来像について説明し



■環境管理（草地）

2日目も初日に続いて小雪が舞う寒い日で、時折さす光が本当にありがたく思える日でした。

この日の講座は草地の環境管理についてです。

午前中は藍那の草地の特徴や、人々の営みと植物の関係などを相談ヶ辻の家にて座学を行いました。

午後からは実際にフィールドへ出て、植物の説明と同意（生物の分類上の種名を決定すること）が行われ

ました。冬になると植物は枯れてしまっている場合が多く、夏や秋には良く目にした草花も、冬の状態は知らない方がほとんどでした。花の時期が終わわり、葉っぱも茶色くなった状態の草花を判別するのは、かなり難しい作業のようでした。それでも、見慣れた花の種の様子など、興味深く観察をしていました。



アクションリサーチ・ワークショップ

AR参画団体による公園との関わりについての話し合い



アクションリサーチは昨年度から始まりました。樹林の整備や、参画団体のイベントを団体同士の協力で行ったりと、活動していく中で方向性や組織体制について模索してきました。来年度のアクションリサーチに向けて、今まで実施されてきたプログラムやイベントについて振り返ると共に、今後の方向性について話し合う機会として「アクションリサーチ・ワーク

ショップ」を開催しています。

昨年12月2日に第1回目をを行い、今までの活動の振り返りを行いました。参画団体の方からは「里山は綺麗にしたい、でも毎週活動するのは難しい、それに団体の活動もしたい」といった意見が出されました。

1月20日に第2回目が開催され、現在の工事の進捗紹介に加えて、藍那の植物の特徴を風土を交えて紹介したり、以前の農業のやり方などを紹介していただきました。

午後からは「樹林」と「農地」「利用・活動」の3グループに分かれて、現在の活動状況をそれぞれ話した上で、課題や問題点を共有したり将来像を話し合ったりしていました。

冷え込みが厳しい中での開催になりましたが、相談ヶ辻の家の中では熱い議論が交わされていました。

ARミニイベント 竹灯明づくり 環境ボランティア わかば会



「竹灯明」での追悼は阪神大震災を祈念して行われます。昨年に引き続き環境ボランティア「わかば会」によって、竹灯明台づくりがミニイベントとして実施されました。

竹灯明台に使う竹はモウソウチクです。これは園内に生育する竹の中で最も太く重い竹です。

ミニイベントが開催されたのは1月14日。小学生から年配の方まで幅広い方が集まりました。

モウソウチクを伐採し、相談ヶ辻の家の前で灯明台に適した大きさに切つていきます。



子供たちは、自分の足より太い竹を切っていくのに苦労していたようですが、その仕上がりはなかなかのものでした。用意する本数は、300本。大変な作業量に思えましたが、40人を越える参加者が集まれば、その作業もあっという間です。作業は午前中に終了し、昼食はあいな茶屋特製のお味噌汁とじねんじょご飯。寒い中で作業後のご馳走を、皆さんおいしく召し上がっていました。